

No.	市町村名	意見
1	仙台市	市の意見及び県からの回答は「県立精神医療センターの富谷市への移転及び名取市への民間精神科病院誘致に係る宮城県の考え方」（令和5年9月25日）のとおり。
2	石巻市	精神疾患患者さんの身体合併受入等を含めた持続可能で良質な医療の安定的な供給は重要であり、交通の利便性なども含めて必要な医療を受けやすくするための対策も併せた検討が必要と考えます。
3	塩竈市	今の現状を鑑みた時に、多くのコンセンサスを得られているとは思えない。 今後も議論を深め理解を得られるような取組をお願いしたい。
4	気仙沼市	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの推進は、地域共生社会の実現のためには欠かせないものである。地域生活における支援体制については、重点地域以外へも継続した支援をお願いしたい。 また、名取市内へ開設する精神科新病院を公募により募集するに当たって、応募要件を県内の精神科病院を有する法人としていることで、他医療圏域の病床が移転される可能性もあることから、他圏域の医療提供体制に影響が出ないよう、十分に考慮されたい。
5	白石市	病院再編については、今後の人口推移、病院の運営維持を勘案しますと必然であり、身体合併症がある当事者の入院、通院できる医療機関の整備は必要と考えます。 ただ、黒川地域への精神医療センターが移転された場合、仙南圏域の精神医療のアクセスが物理的にも精神的にも困難になることが予想され、丁寧な調整が必要と思われまます。 一例をあげますと、精神疾患のある方の通院については、慣れた環境が安定した受診につながると推察されます。そのような中、民間病院が名取市に開設された場合、せめて交通の便が良い公共交通機関の使用できる場所、高速道路のインターチェンジ付近であれば患者本人及び通院介助する御家族も精神的な負担が軽減されると思います。 また、精神科救急対応の役割を担う精神医療センターとのスムーズな連携や、新設の民間病院が24時間対応を担うかなど、仙南圏域での救急精神医療の確保に向けた体制を検討いただければと思います。
6	名取市	3病院再編の時点から、名取市議会をはじめ名取市医師会、名亘2市2町、宮城県南サミット、市民の会の署名など、多くの要望活動を展開してきたところ、4病院の2つの枠組みとして、がんセンターの機能の存置とともに救急や周産期医療、災害対応などの医療機能の拡充が図られる形で、名取市に連携・統合した新病院が立地となる方針を示していただいていることは市民にとって非常に大きなメリットであることを評価し、感謝申し上げます。 一方で、これまで60年以上に亘り名取市に立地している精神医療センターが富谷市に移転することも示されているところであり、通院・入院されている方やその御家族、病院従事者の負担が増すといった声や、これまで共に歩み支えてこられたグループホームをはじめとした地域の方々の不安の声も頂いていたところでもあります。精神科デイケア、地域医療連携室を含め県立精神医療センターを利用されている方々への配慮など、現在利用されている方々についても継続して必要な医療サービスが受けられるような配慮も必要であると考えていたところであり、そのような声にできる限り寄り添っていただくようお願いしてきたところでもあります。 今回提案されている精神科民間病院誘致の内容からは、精神医療センターの富谷市への移転に伴う様々な課題への対応が示されものと捉えたところでもあります。有床の精神科民間病院が名取市内に立地することにより、名取市はもとより県南地域の患者さんの通院・入院の負担軽減や地域のグループホームなどこれまでの課題に対応できること、精神医療センタースタッフの出自により患者と医師との信頼関係の維持などが期待されるものであり、これまでお願いしてきたことに対して配慮いただいたものと評価するものであります。また、「にも包括」体制の強化、仙台保健福祉事務所岩沼支所の組織体制の強化なども図られるとのことであり、民間病院誘致との相乗効果を期待するところでもあります。 なお、名取市における精神障害者福祉の施策につきましては、これまで同様、宮城県と連携し維持してまいりたいと考えております。

県立精神医療センターの富谷市への移転及び移転後の名取市への  
精神科民間病院誘致に関する市町村からの意見

No.	市町村名	意見
7	角田市	<p>現在、県立精神医療センターにおける精神科医療は、角田市はもちろん、仙南管内の医療、保健、福祉と密接にかかわり、連携をとっている状況にある。角田市においては、県立精神医療センターの自立支援医療受診者は95名となっているが、中には、体調急変により、緊急受診・入院となる者もいる。精神障害者の方の受診に関しては、緊急対応等困難さを呈している方もいるため、黒川地域への移転・合築となると、更に困難度が増すことから、急性期の受診・入院の対応できる病院が仙南圏域に必要であると考えます。</p> <p>今回、名取市内での精神科病院の開設に向けて、民間病院の募集を行っていく方向とのことであるが、民間病院の参入がない場合でも、仙南圏域に何らかの形で急性期の受診・入院の対応ができる医療機関が配置されることを切に願うものである。</p> <p>また、当事者が地域の中で生活し続けられる支援体制は大切であり、新たな病院体制となっても、現在行っているデイケア機能、訪問看護機能、地域連携室との連携等は重要と考えており、「にも包括」を推進できる体制整備を同様をお願いしたい。</p>
8	多賀城市	<p>本市にも現在の精神医療センターに通院している方が少なからずおり、全く影響がないものとは言えない。</p> <p>しかし、精神医療センターを中心に作られてきた地域コミュニティー・文化の中での支援を直接的に受けている方は本市にはおらず、移転によって直ちに生活そのものが立ち行かなくなるといったことはないと考えます。</p> <p>県南地域の精神科医療・保健・福祉のサービスを受ける機会が制限されることがないように十分な配慮をしながら、移転・誘致を進めるべきと考えます。</p>
9	岩沼市	<p>当市においても、精神医療センターの富谷市移転による通院継続困難の声や、これまで培われてきた精神障害児者地域支援体制の行く末に対する不安など、多数の声が寄せられています。さらに、今般の提案で精神科民間病院誘致案が加わったことで、不安の声が増えることが見込まれます。</p> <p>当市としては、今後も市民の医療を受ける機会の制限や精神障害児者への包括支援体制が低下することなく、また、必要な方が必要な時に適切な医療、各種支援が受けられるよう、県において、今後、より一層の丁寧な説明と関係機関との調整を進められ、地域医療体制の整備に取り組んでいただきたいと考えます。</p>
10	登米市	<p>仙台医療圏の政策医療の課題解決のため病院再編構想について理解をするとともに、県立精神医療センターの富谷市への移転についても、本市からの利用者の交通アクセス面で時間短縮が図られることから異論はない。</p> <p>また、名取市への精神科民間病院誘致については、企画提案募集に対して異論はないものの、県民及び関係者の理解が得られるよう配慮しながら進めていただきたい。</p>
11	栗原市	<p>県立がんセンターと仙台赤十字病院の統合により名取市に、また県立精神医療センターについては、東北労災病院との合築により富谷市に再編され、特に合築後の精神医療センター機能は身体症状を伴う患者の受入れが可能となり、個室確保等の病院が抱える課題解決により、患者の利便性も向上するものと理解いたします。</p> <p>栗原市は精神科医療機関がないことに加え、救急時は県立精神医療センターへ搬送となる場合があることから、県立精神医療センターが富谷市へ移転されることにより、栗原市民の救急搬送時間の短縮や、県立精神医療センターが身近な医療機関となり受診を希望する方が利用しやすくなることを期待しております。</p> <p>現在、県立精神医療センターの周辺地域では、地域の相談支援事業所等との連携により、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」が構築されており、移転による様々な影響について心配する意見がなされておりますことから、地域や患者の声を取り入れ、関係機関の理解を深める取り組みにより推進されるよう求めるものであります。</p>
12	東松島市	<p>県立精神医療センターが移転することとなった場合には、移転先について交通の利便性等を十分に考慮願いたい。</p>

県立精神医療センターの富谷市への移転及び移転後の名取市への  
精神科民間病院誘致に関する市町村からの意見

No.	市町村名	意見
13	大崎市	<p>医療資源が不足していく将来を見据え、仙台医療圏において宮城県が主体的に医療提供体制を整えようとする本取組は評価できる。</p> <p>一方、仙台医療圏以外の地域においても、医師の高齢化など様々な課題が顕在化する中で、救急医療をはじめとする地域医療体制が脅かされている。</p> <p>また、公立病院を開設する地方公共団体においては、総務省からの要請を受け「公立病院経営強化プラン」を策定し、持続可能な地域医療体制の確保するべく取り組んでいる。</p> <p>宮城県におかれては、県内各医療圏の実態を踏まえ、地域医療の維持・確保に取り組む地方公共団体に対して、財政面を含めた包括的な支援を行うよう強く望むものである。</p>
14	富谷市	<p>本市としては、県が推進する4病院の移転・再編は、仙台医療圏における急性期病床の仙台市一極集中の是正及び救急、がん、精神医療など政策医療の課題解決の観点から必要不可欠と考える。特に、本市にとっては、救急、急性期を担う総合病院の立地は、市民の生命を守る上で長年かつ喫緊の課題であるほか、災害拠点病院の空白地域解消も黒川地域の重要な課題であることから、本年2月の協議確認書を踏まえ、東北労災病院と県立精神医療センターの移転・統合による新病院の本市明石台地区への整備に係る基本合意の早期締結を期待している。</p> <p>現在、精神医療センターの本市移転の是非が4病院移転・再編の大きな争点となっているが、本市としては、精神医療センターが唯一の県立精神科病院であることに鑑み、その立地場所については、全県を見据えた大局的かつ長期的な見地から判断されるべきと考える。その上で、新精神医療センターの利用の継続が難しくなる患者への対応として、現精神医療センターが提供する外来、デイケア、訪問看護、入院等の機能を備えた精神科病院を名取市に公募する県の案は、移転に反対される方々の懸念に丁寧に対応した非常に手厚いものと高く評価する。</p> <p>同時に示された「にも包括に関する事業・予算の大幅拡充」と「精神保健福祉に関する県組織体制の強化」の二つの施策も高く評価する。本市では、新病院の開設予定時期の令和10年度又は11年度を目途に、精神保健福祉の相談支援体制の強化、医療機関との連携体制構築、グループホームや就労支援事業所等の立地促進、市民への普及啓発など「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築を推進していくこととしている。今年度は、県本庁及び保健所との勉強会、意見交換会や市専門職の検討会などを実施しているが、今回提示のあった県の施策も有効に活用し、県や関係機関との密接な連携の下、新精神医療センターの立地を見据え、立地自治体に期待される取組を着実に実施してまいりたい。</p> <p>本市では新病院立地後の患者及び病院職員の通院及び通勤の交通アクセス整備として、泉中央駅と新病院間のシャトルバスの運行を予定しているが、バス事業者との連携による仙台駅前と新病院間の直通バス路線の確保などについても検討しているところである。また、新精神医療センターと市内利用者の居宅、グループホームや就労支援事業所等の社会資源とのアクセスについても、市民バスやデマンド交通などを活用し、通院等の利便性を確保してまいりたい。</p>
15	蔵王町	<p>仙台医療圏の病院再編構想に関する県の方針については賛成しているが、精神医療センターについては本町からも多くの患者が通院していることから、富谷市に移転後の受診者の継続的な治療体制の確保について危惧しているところである。</p> <p>今回、名取市への精神科民間病院誘致についての提案があり、県南地域の治療体制の確保に向けた配慮をしていただいたことに感謝申し上げます。</p> <p>精神科新病院の運営法人が決まり、精神医療センターとの連携体制の構築、継続した治療体制の確保に向けて進めていただきたい。</p>
16	七ヶ宿町	<p>基本的に病院再編構想について賛成します。仙台医療圏に病院が集中するのではなく、県全体の受診体制を再編整備する必要があると考えています。</p> <p>特に、精神科医療については、仙台医療圏だけではなく、広く県南全体の生活と医療体制のバランスに関わる問題と認識している。民間病院誘致だけに拘らず選択肢について意見を求めるなど、もう少し検討をしてはどうかと思われる。</p> <p>最大の目的は、病院の一極集中を解消することと考えます。</p>

県立精神医療センターの富谷市への移転及び移転後の名取市への  
精神科民間病院誘致に関する市町村からの意見

No.	市町村名	意見
17	大河原町	<p>国が「地域医療構想」の策定を都道府県に求めてから既に8年目を迎えているが、本県においても将来の医療需要や病床の必要量の変化等に対応した目指すべき医療提供体制の整備が急務である。当然のことながら、県内のそれぞれの医療圏に於ける医療機能の分化や連携強化を図るための施設整備の方向性については、県と東北大学（病院）等との基本的な擦り合わせが重要であろうと受け止めていた。</p> <p>仙台医療圏における在るべき医療機能についても、将来の再編や連携強化の議論なしには持続可能な良質な医療の提供体制整備にはつながらないはずである。また、県としては、がんセンターと精神医療センターの抱える課題（老朽化等）に基づく将来の在り方の議論も強く求められる中で、仙台医療圏が抱える課題（救急・災害・周産期等）を合わせ解決する方策として、4病院の再編構想が示されたものと認識している。県全体を考慮しても「地域医療構想」の実現に寄与する現実的なプランとして評価している。</p> <p>しかし、県南の精神科医療については、特に外来から入院までの対応が可能な病院として精神医療センターの存続を求める声の本町の中ですら上がっているのも事実である。これを重く受け止めれば精神病患者の医療提供体制の確保策として移転後の名取市への精神科民間病院誘致の案が示されたことについては、やや唐突ではあったが、県としての軌道修正案として決して受け入れ難いものではないと考えている。</p> <p>本来、「地域医療構想」は2025年に向けて策定するものとされており、早期の解決を期待したい。安易な考えかもしれないが、仙台市が「地域医療構想」の実現につながる仙台医療圏での再編・ネットワーク化の必要性及び連携強化について具体的な意見を示すことによって、圏域住民の意見集約に向けて進展するのではないかと受け止めている。</p>
18	村田町	<p>宮城県の構想である精神医療センターと東北労災病院を合築して、精神と身体の合併症への対応強化を図ることは理解する。</p> <p>しかし、移転に対する意見や指摘が出ていることも事実であるため、精神科医師や患者の意見を聞き取り、議論を深めていただきたいところである。</p> <p>仙南地域にある村田町としては、名取市にある精神医療センターが富谷市に移転するとなると、今まで診療を受けていた患者の転院が課題となっている。</p> <p>今般、県が示す名取市への民間の精神科病院の誘致については、急性期の入院施設の確保や、現在の利用者が安心できることなど、精神科病院の開設に向け実現するよう賛同する。</p>

県立精神医療センターの富谷市への移転及び移転後の名取市への  
精神科民間病院誘致に関する市町村からの意見

No.	市町村名	意見
19	柴田町	<p>移転検討や仙台医療圏の病院再編構想、精神科病床確保のための官民連携による精神科新病院の名取市への開設に至った経緯については理解した。</p> <p>しかし、当事者である患者・家族はもちろん、支援者である関係者や行政職員に対しても現在に至るまでの説明内容や説明の機会の不足は否めない。新病院の公募の前に、説明会やオープンな議論ができる機会を持ち、当事者や関係者をはじめ県民の納得のもと進めていくことが必要ではないか。主治医と患者・家族が信頼関係を築くまでに時間を要することをどう考えているのか。</p> <p>大崎市へ精神保健福祉センターを設置する際に、県南へブランチを置くこととしていたが、計画そのものが立ち消えたと聞く。県南の精神保健福祉に関する体制についてはどのように考えているのか。現在のところ、仙南医療圏の精神保健福祉体制整備案がない。今後、仙南医療圏において、新たに精神保健福祉センターの機能を有するサポート体制を県が独自に構築し、当事者や関係者・行政職員等に不安を抱かれることがないよう十分に斟酌した丁寧な取り扱いを心掛ける必要がある。</p> <p>●官民連携による精神科新病院を誘致した場合の懸念点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 当面の間、精神医療センタースタッフによるサポート期間（医療スタッフの交流・出向等）を想定しているが、どのくらいの期間を見込んでいるか。医療スタッフに医師は含まれるか。</li> <li>2. 現在の精神医療センターの病床数が258床であるが、新病院の病床数（88床+α）で仙南医療圏の現在の精神医療水準が維持できるか。</li> <li>3. 救急・デイケア・訪問看護・地域相談事業支援のための指導医の派遣等、不採算と思われるメニューへの継続した県の運営補助金や人的支援は考えているか。</li> </ol> <p>●当町の自立支援医療・精神通院受給者の現状（令和5年8月末現在）より</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 受給者のうち県立精神医療センターは15%と最も多い。町外にも関わらず県立精神医療センターを必要としている人が多いことは明白である。</li> <li>2) 受給者の52.5%は県南・仙台医療圏の入院設備のある医療機関である。残りの約半数にあたる47.8%の中にはクリニック等（無床）もあり、症状悪化時に精神医療センターへ入院する者も多い。地域の連携（入院先）について課題が残る。</li> </ol> <p>※県立精神医療センターは、措置入院患者や困難ケースの受入れも多く、地域移行時の調整会議の主催や連携、支援者への支援（相談・指導）などなくてはならない医療機関であるので、その機能が継続するサポート体制の構築を図る必要がある。</p>
20	川崎町	<p>まずは、「持続可能で良質な医療の安定化」と「拠点病院の効率的な再構築」への極めて困難な取り組みに感謝を申し上げたい。また、県立精神医療センターの富谷市への移転後における名取市内精神科新病院の開設案に県南圏域に対する精神保健体制への配慮も感じられる。</p> <p>一方で、現に精神医療センターを利用している方や御家族、近隣のグループホーム関係者などの戸惑いや不安は大きいものがある。また、近隣市町における重症患者等への適切な指導や措置入院等の支援の低下が懸念される。</p> <p>については、可能な限り現行の機能が保持されるよう「きめ細かな協力体制」が担保された新病院開設を希望する。</p>

県立精神医療センターの富谷市への移転及び移転後の名取市への  
精神科民間病院誘致に関する市町村からの意見

No.	市町村名	意見
21	丸森町	<p>現在、丸森町の精神障害者の約2割の方が、県立精神医療センターをかかりつけ医として通院されており、統合失調症などを患い通院歴が長い方も多い状況にあります。</p> <p>また、長期入院の他に、デイケアや訪問看護を定期的にご利用している方もおり、病気を抱えながら地域で安心して暮らすための受け皿であるかかりつけ医が遠隔地になることは、交通アクセスと経済面なども含め、患者・家族等の負担が大きくなるものと思われ、今回の富谷市への移転については、当事者の立場を考える課題が多いものと考えております。</p> <p>特に仙南地域においては、どの病院も初診外来は予約待ちの状況となっており、入院機能を持った病院も限られている中で、県立精神医療センターにおいては、緊急時24時間対応できる病院であり、更に児童精神科を標榜している入院機能を持った医療機関でもあることから、仙南地域の精神医療体制として重要な役割を担っている医療機関であり、入院機能のある病院が減ることは当事者にとって大きな不安につながるものと思われまます。</p> <p>課題解決のために今回の提案のとおり、名取市へ精神科民間病院誘致を勧めていくのであれば、児童精神科も含め現在の県立精神医療センターの救急医療体制機能を兼ね備えた医療機関の誘致並びに包括的支援体制の充実を希望いたします。</p> <p>さらに、移転に伴う当事者の不安払拭のために、十分理解を得られるよう患者や家族など当事者への説明をしっかりと行っていただき、移転後の継続的な治療に向けた配慮・支援を確実に行っていただきますようお願いいたします。</p>
22	亘理町	<p>亘理町には、精神科病院、医院がなく、外来受診、入院については、岩沼市や名取市、仙台市等の医療機関にお願いしているところですが、県立精神医療センターの施設老朽化に伴う早期建て替え、一般病院との連携強化について、県の方針について理解いたします。</p> <p>なお、本町といたしましては、地域における精神医療・保健・福祉システム等の機能が継続されることをお願いしたい。</p>
23	山元町	<p>仙台医療圏の病院再編構想に関しては、多くの課題も出ていることから、県民に理解を得ながら進めていく必要がある。</p> <p>また、再編のメリットを最大限に生かせるように医療体制の充実を図り、周産期医療や産後デイサービスの強化など持続可能で全ての県民が享受できる医療圏域の構築を求めます。</p> <p>精神医療センターの移転に関しては、県民はじめ多くの関係機関から問題提起されていますので、丁寧な説明が必要である。</p> <p>精神医療センターを統合する最大のメリットは、身体合併症への対応とされておりますが、現状の病床数が減少になることや患者及び医療従事者への配慮など移転に伴う影響について、もう一度整理が必要と考えます。</p> <p>民間病院の誘致に関しては、再編構想においての課題解決策と捉えておりますが、県民や医療関係者の意見を尊重し、仙台医療圏の病院再編が必要不可欠である以上、利用者のサービス低下につながらない対策を行い、再編と精神科誘致を一体的に進め、医療サービスの向上につなげるように求めます。</p> <p>今回提案の精神科の誘致は、利用者の「切実な思い」の解決につながることから、同地域に精神医療体制の基盤を必ず確保するように求めます。</p> <p>また、精神医療センター等への初診外来予約も困難な状況であることから、受診体制の改善に努めていただきたい。</p>
24	松島町	<p>全ての意見を吸い上げた形で新しい構想を実現することは大変困難であると察するところであるが、少なくともどのような意見があるのかを理解した上で、時間をかけて進めることが必要であると思う。</p> <p>基本的には、以前回答した意見と同様</p>
25	七ヶ浜町	<p>医療サービスを利用する方が、交通アクセスの面で利用することができなくならないように配慮すること、また、入院や専門的な医療サービス等を利用する方の医療機会を確保できるよう十分配慮しながら、移転・再編を進めていただきたい。</p>

県立精神医療センターの富谷市への移転及び移転後の名取市への  
精神科民間病院誘致に関する市町村からの意見

No.	市町村名	意見
26	利府町	<p>富谷市に新たな県立精神医療センターが開設することで、仙台保健福祉事務所圏域の精神保健分野の支援体制が更に強化されることに期待しております。</p> <p>また、移転元の県内地域の課題への問題解決のためにも官民連携による精神科新病院の誘致についても賛同いたします。</p> <p>引き続き、患者・地域住民・医療従事者等の意見を尊重しながら、県内全域で、地域生活を支える医療提供体制が確保できるよう要望します。</p>
27	大和町	<p>仙台医療圏の病院再編構想については、本町を含む黒川地域が抱えている救急医療、災害医療の課題の解決にも大きく寄与するものであり、限りある医療資源の県全体での最適化を図る上でも、本構想の実現に向けて着実に取り組まれることを望むものである。</p> <p>なお、今般、提案された新たな精神科病院誘致も含め、仙台医療圏が抱える課題の解決に向けて、引き続き関係者、関係機関との調整のほか、多くの県民に御理解いただけるよう丁寧な取組をお願いしたい。</p>
28	大郷町	<p>仙台医療圏については医療の一極集中化による負の面が危惧される所であり、拠点病院の再編は時代のニーズでもある。</p> <p>精神医療センターにおいては、施設老朽化による建て替えが必要不可欠な中、現地を含めた名取市内には適地が見当たらない。</p> <p>そのような中、候補地になっている富谷市に設置できれば、県内でも人口増加率が高い黒川地域における災害拠点病院の空白が解消できるし、県北地域における精神医療体制が充実する点は評価できる。</p> <p>しかしながら、センターの移転に対する意見にもあったように、道路交通網の整備が進んでいるとはいえ、精神科外来（県南）と入院（富谷市）が遠距離になることは、住民はもとより関係機関にとっても不安視されることから、今回新たな提案となる民間医療機関の誘致は、有効的な解決策といえる。県全体における医療体制の確保と充実が図れるよう期待する。</p>
29	大衡村	<p>移転により住民にとって機能的な医療機関が近くなることは安心して生活できるだけでなく、交通のアクセスの向上及び、交通費用等の負担が軽減されると思われる。医療を受ける方が身体的、経済的負担が理由で受診を制限されることがないように十分配慮した再編構想を進めてほしい。</p> <p>総合病院誘致は、今後の黒川圏内の活性化のためにも前向きに進めていただくことに、賛同します。</p>
30	色麻町	<p>県北部地域では精神医療機関が少ないことから仙台医療圏への受診を強いられており、その際の負担が大きく黒川地域への移転には期待をもっている。</p>
31	加美町	<p>仙台圏域における4病院の移転・再編については、病院の老朽化により建替えが急務であることや仙台医療圏の仙台市内への医療機関の偏在による救急医療、災害医療などの課題解決のため、また、より質の高い医療サービスの提供のため、必要であると理解いたします。</p> <p>県立精神医療センターの富谷市への移転後の名取市への精神科民間病院誘致につきましても、県南の精神疾患をお持ちの方々への医療体制の確保のために必要であると考えます。</p> <p>本町としては、県立精神医療センターが富谷市に移転することにより、全県域において精神疾患をお持ちの方々への医療体制が充実するとともに、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム、いわゆる「にも包括」の体制整備の推進に寄与するものと期待しております。</p>
32	涌谷町	<p>県内の医療供給体制は、できるだけ均衡ある形が望まれる。</p> <p>今回の県の動きは、医療施設ばかりでなく医師、看護師やコメディカルのスタッフが、少しでも県の南北へと延伸させるものと評価する。</p> <p>今回の一連の動きを見据えて、県におかれては、改めて県内の各医療圏の在り方を持続可能な医療体制の見地から深考いただければ、ありがたく思います。</p>
33	美里町	<p>富谷市への移転及び名取市への精神科民間病院誘致により、県内の精神科医療体制強化等につながることは、十分に理解している。仙台医療圏北部の災害時の救急医療の拠点となることに、大きく期待する。</p>

県立精神医療センターの富谷市への移転及び移転後の名取市への  
精神科民間病院誘致に関する市町村からの意見

No.	市町村名	意見
34	女川町	<p>今般の病院再編構想について、仙台医療圏が抱える課題など県がこれまで提示してきた理由・論点に加え、① 仙台医療圏に隣接する各医療圏における今後の医療提供体制充実の必要性、② 県内全体で見た場合の今後の人口動態（程度の差はあれ全体が減少基調）、③ ②を鑑みた上での医療提供の将来にわたる持続性（＝病院経営の持続性）確保など、全県的な見地及びそれを踏まえた全体最適化という観点からすれば政策の方向性として理解できるものと受け止めている。</p> <p>構想に対する反対意見の多くは仙南・県南地域での精神医療機能低下への懸念であり、多少唐突感があるにしても「新病院」の誘致・設置案は実現すればその払拭につながるものと考えるが、具体化に加え「誰（どこ）が引き受けるのか」が理解を拓ける上では重要であり、その点も含めた早期の具体化を期待する。</p>
35	南三陸町	<p>今回再編対象となる医療機関への町民の利用は限定的で、当町から見た影響は少ないと思うが、引き続き、医療を受ける側の利便性確保や患者等のケアについて十分に配慮をお願いしたい。</p>